

令和7年度 学校研究 全体計画

1. 研究主題

地域社会とつながり、持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成

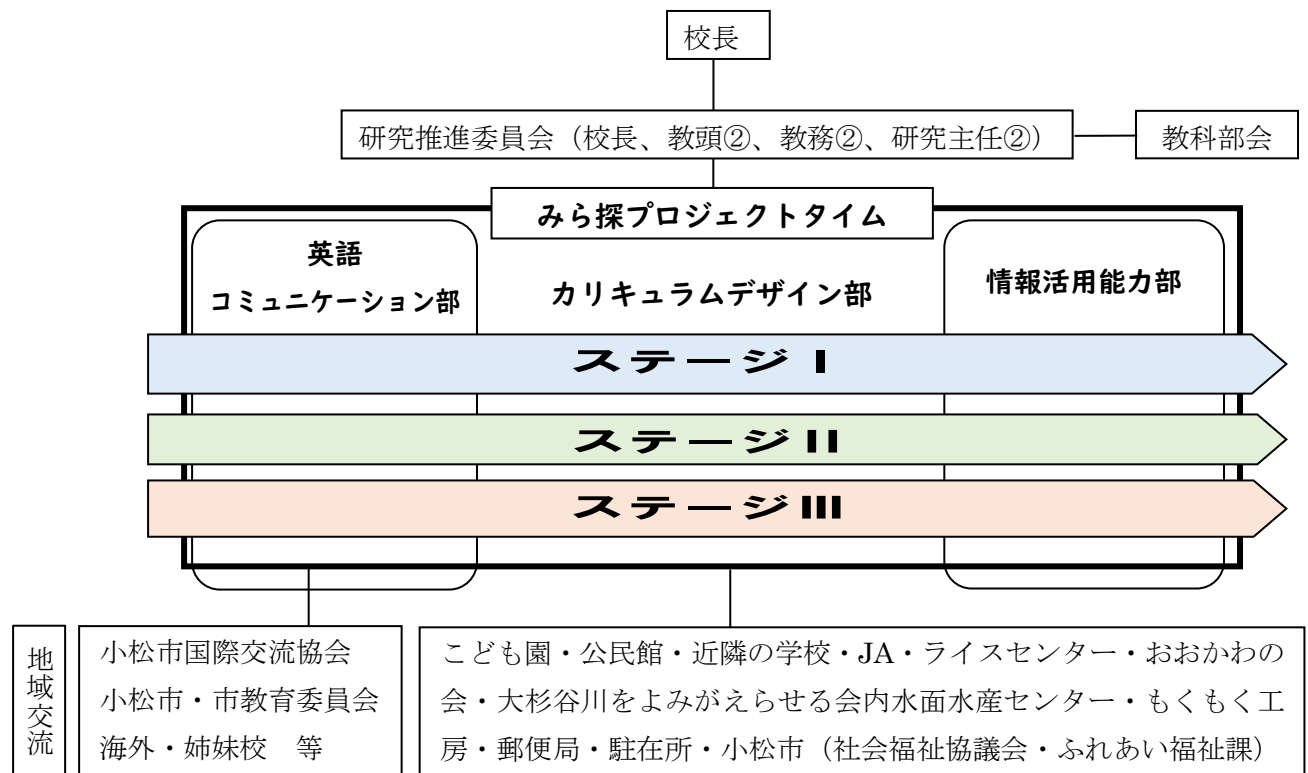
～主体性と問題発見・解決能力を育む「みらい探究科」のカリキュラム作りを通して～

【令和6～8年度 小松市教育委員会指定 未来の学びづくり研究事業】

2. 主題設定の理由

今日、VUCA時代と言われる変化が激しく予測困難な現代を持続可能な社会へと構築できる人材が求められている。それはSDGsの視点を持ち、グローバルに他者と協働しながら、自己の資質・能力を発揮し、諸課題を発見・解決することができる人材である。そのためには、地域社会と学校教育との有機的なつながりを基盤としつつ、各教科等と「みらい探究科」において育成される資質・能力との相互作用のもと、主体性を養い、問題発見・解決能力が発揮できるようなカリキュラムの創造・実践が必要であると考え、本研究主題を設定した。

3. 研究組織



4. 研究内容

(1) 未来の学びづくり研究事業 R6～8年

	①カリキュラムの見直し	②授業づくりと評価	③地域
1年目	・「プロジェクトタイム」 1～9年生見直し⇒新カリキュラム作成 ・カリキュラムマップ見直し(各教科との関連について)	・各教科との系統性、評価方法の検討を共有(教科部会) ・重点単元における授業実践 ・プロジェクトタイムの授業実践	地域人材の活用や関係機関との連携
2年目	・「プロジェクトタイム」各単元における「情報活用能力」のカリキュラム作成 ・「プロジェクトタイム」各単元における「英語コミュニケーション」のカリキュラム作成(1～9年生の英語と関連づける) ・グローバルタイム(1, 2年生)カリキュラムの見直し(1～9年生の系統性)	・学びの段階ステージⅡ、ステージⅢにおける指導と評価 ・重点単元における授業実践 ・「英語コミュニケーション」の授業実践 ・グローバルタイム(1, 2年生)の授業実践	
3年目	・「みらい探究科」授業時数検討 ・新カリキュラム作成 ・新カリキュラム試行	・「みらい探究科」新カリキュラムによる授業実践 ・学びの段階ステージⅠ、ステージⅡ、ステージⅢにおける指導と評価	

(2)今年度の研究内容

①みらい探究科におけるカリキュラムの見直しと試行

- ・昨年作成したみらい探究科の「プロジェクトタイム」の各単元に「情報活用能力」や「英語コミュニケーション」を追加し、新カリキュラムを作成する。
- ・「情報活用能力」のカリキュラムは、基本的な操作の習得、プログラミング、情報モラル・セキュリティ、生成 AI 等について検討する。
- ・「グローバルタイム」（１，２年）のカリキュラムを見直し、１～９年生の系統性を明確にするとともに、外国語活動、外国語科で育成する資質・能力を活用した「英語コミュニケーション」のカリキュラムを作成する。
- ・各教科で身に着ける資質・能力を確認し、各学年の「カリキュラムマップ」を見直す。

②探究的な学びを深める授業づくりと評価

- ・児童生徒が主体的に学習に取り組み、探究的な学びを深めるために、見通しや振り返りを重視するとともに、思考ツールや ICT を活用した指導方法を積極的に工夫する。
- ・地域資源を生かした人々やさまざまな人的資源との交流を通して発信の場を設け、探究のプロセスを充実し、資質・能力の育成を図る。
- ・各プロセスにおける適切な評価規準の設定と、探究を支えるワークシートの検討など、具体的に多様な評価方法を開発する。

③教科研究

- ・各教科における学習課題の設定と学習形態を工夫し、探究的な学びが日常となるようにする。
- ・各教科・領域と「みら探」で育成した資質・能力を往還的に発揮できるよう、教科横断的な視点を持ち学習課程を設定する。
- ・義務教育学校の特色を生かして教科部会を開き、教員一人一人の専門性を高め、授業の質的向上を目指す。

5. 検証方法

① みら探研究授業 探究的な授業づくりの重点・視点による検証

（・ねらいが達成できたか・児童生徒が主体的に学ぶ姿があったか など）分析、改善案

② 英語コミュニケーションカリキュラム、情報活用能力カリキュラムの実践チェック

③ 児童生徒アンケート（学びの達成・情報活用能力）

④ 教職員アンケート